

平成28年 5月17日

学校教育計画（平成28年度～平成31年度）

学校名	生田東高等学校	課程・学科 教育部門・学部	全日制課程・普通科
-----	---------	------------------	-----------

1 学校のミッション

全日制普通科の高校として、生徒一人ひとりの学習や進路等の目標の実現に 대응するため、学年制によるカリキュラム・マネジメントに学校全体で取り組み、学力の育成、豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立することをめざした学校づくりに取り組む。

教育課程については、共通教科・科目を中心に、生徒の特性や地域・学校等の実情を踏まえながら、普通科として適切な編成を行う。

これまで、自主自律の精神をもち、自己の人生を開拓していく知性と行動力を備えた人材の育成をめざし、思考力・判断力・表現力等の育成に取り組んできたが、今後はさらに、生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めることをめざした不断の授業改善の実施等、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動の充実に取り組む。

2 学校教育目標

校 訓 イクヒ生よ賢くあれ、イクヒ生よ強くあれ、イクヒ生よ正しくあれ

- 活かせる学力の育成と豊かな人間性や社会性を培う。
- 自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学ぶ意欲を高める。
- 自主自律の精神と自己開拓力を育成する。
- 教職員がチーム一丸となり、教育活動に全力で取り組み、生徒一人ひとりの進路実現を目指す。

3 計画作成時点での課題

- 進学に関して、指定校推薦やAO入試に頼り、本来の希望や力を発揮できない生徒が多い。
- 補習・講習等により、生徒の実態に即した学習サポート体制を更に整えたい。
- 部活動の活性化により元気な学校とするため、部活動加入率を50%強から65%としたい。
- 遅刻者が多く、学校生活や私生活の乱れの一因となっている。
- 事故・不祥事防止について、さらに研修を重ねていきたい。

4 4年間の目標と主な方策

	視点	4年間の目標	目標達成に向けた主な方策
1	教育課程 学習指導	○「活かせる学力」の育成	○基礎知識を活用して主体的・協働的に学ぶ授業実践と、夏期講習や補習・講習の充実を図る。 ○大学入試改革に向けて、教育課程の充実・改善を図る。 ○教員相互の授業見学や意見交換の機会の充実を図る。
2	生徒指導・支援	○部活動の活性化 ○人間性・社会性豊かな人づくり	○全職員が各部活動の現状を把握、共有してより多くの生徒が参加できる部活動をめざす。 ○SCなどの専門家や関係機関と連携した、きめ細かな生徒指導・支援に取り組む。
3	進路指導・支援	○進路発見と進路実現	○インターンシップ等を通じて職業理解を深め、広い視点から進路を考える指導を行う。 ○より適切な第一志望の選択能力を育成し、本来の進路希望を実現できる指導に努める。
4	地域等との協働	○地域教育力の活用	○地域の中学校や大学と協働した教育活動を行う。 ○地域の行事や防災活動などに生徒が積極的に参加できるよう取り組む。
5	学校管理 学校運営	○教育環境の整備 ○事故・不祥事ゼロの取組	○体育施設の安全面とトイレ等の衛生面等の教育環境の整備に努める。 ○各グループが主体となった事故・不祥事防止研修を1回ずつ開催する。

平成28年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	「活かせる学力」 の育成	基礎基本を主体とした、上級学校や社会生活で「活かせる学力」の育成に向けた授業の展開と教育課程の見直しを図る。	共通テーマによる授業研究会の実施と各教科会による取組みの発表とまとめを行う。	「生徒による授業評価」や「魅力と特色ある県立高校づくりアンケート」等の回答で「かなり当てはまる」や「とても満足している」の回答率が上昇したか。
2	生徒指導・支援	①部活動の活性化 ②人間性・社会性豊かな人づくり	①部活動の問題点・課題点を把握し、解決と加入率アップに向けた方策の検討を行う。 ②規範意識の醸成といのちや他者とのかわりを大切にする心の育成を図る。	①年間複数回の部活動加入キャンペーンの実施。 ②全ての教育活動において時間厳守を励行し遅刻指導を徹底する。生徒の実態に応じた各種教室・講演会を開催する。	①学校全体で加入率増加の為の意見交換ができたか。部活加入率が65%となったか。 ②遅刻者年間延べ人数が10,000名以下（昨年度12,683名の2割超削減）になったか。生徒の実態に応じた各種教室・講演会を開催できたか。
3	進路指導・支援	進路発見と 進路実現	より適切な第一志望の選択能力を育成する。 インターンシップへの積極的参加を促し、広い視点から進路を発見できるよう内容の充実を図る。	職員、生徒それぞれの成績分析会を実施する。 総合的な学習の時間等で職業理解・勤労観を養い、インターンシップを積極活用するよう取り組む。	指定校やAO入試の応募状況と進学先の分析を行ったか。 昨年度に比べてインターンシップ参加者が10名以上増えたか。
4	地域等との協働	地域教育力の活用	地域の中学校や大学と協働し、3年間の枠組みを超えた視点で教育活動を捉える機会を作る。 社会の一員として意識できるよう、防災活動などの地域連携の行事に参加する。	近隣中学校と、授業及び学校行事の相互見学を行い、意見交換をする。 地域との防災活動に参加できるように生徒の意識を高めるような取り組みを行う。	多数の職員が、校内及び近隣中学校との相互見学や意見交換の機会を複数回活用したか。 防災活動などの地域連携の行事に参加できたか、地域と協働した行事ができたか。
5	学校管理 学校運営	①教育環境の整備 ②事故・不祥事ゼロの取組	①クラス増に対応した教室環境を整える。安全衛生に配慮した整備を行う。 ②職員一人ひとりが、事故・不祥事防止を自らの問題として認識し、事故・不祥事の未然防止に取り組む。	①学習に支障が出ないように環境整備に努める。トイレ衛生や体育館の安全面を改善・改修する。 ②グループ主催で、事故・不祥事防止研修会を開催する。正確な点検作業を行う。	①クラス増に伴う普通教室の設備を整えることができたか。施設の改善・改修が進んだか。 ②各グループごとに、事故・不祥事防止研修会を開催できたか。正確な点検作業を行えたか。